

鳥井家公私之日記

(明治 6 年 2 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

二月

一日立春

一月立春後晴天多雨少風也少
一日立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少

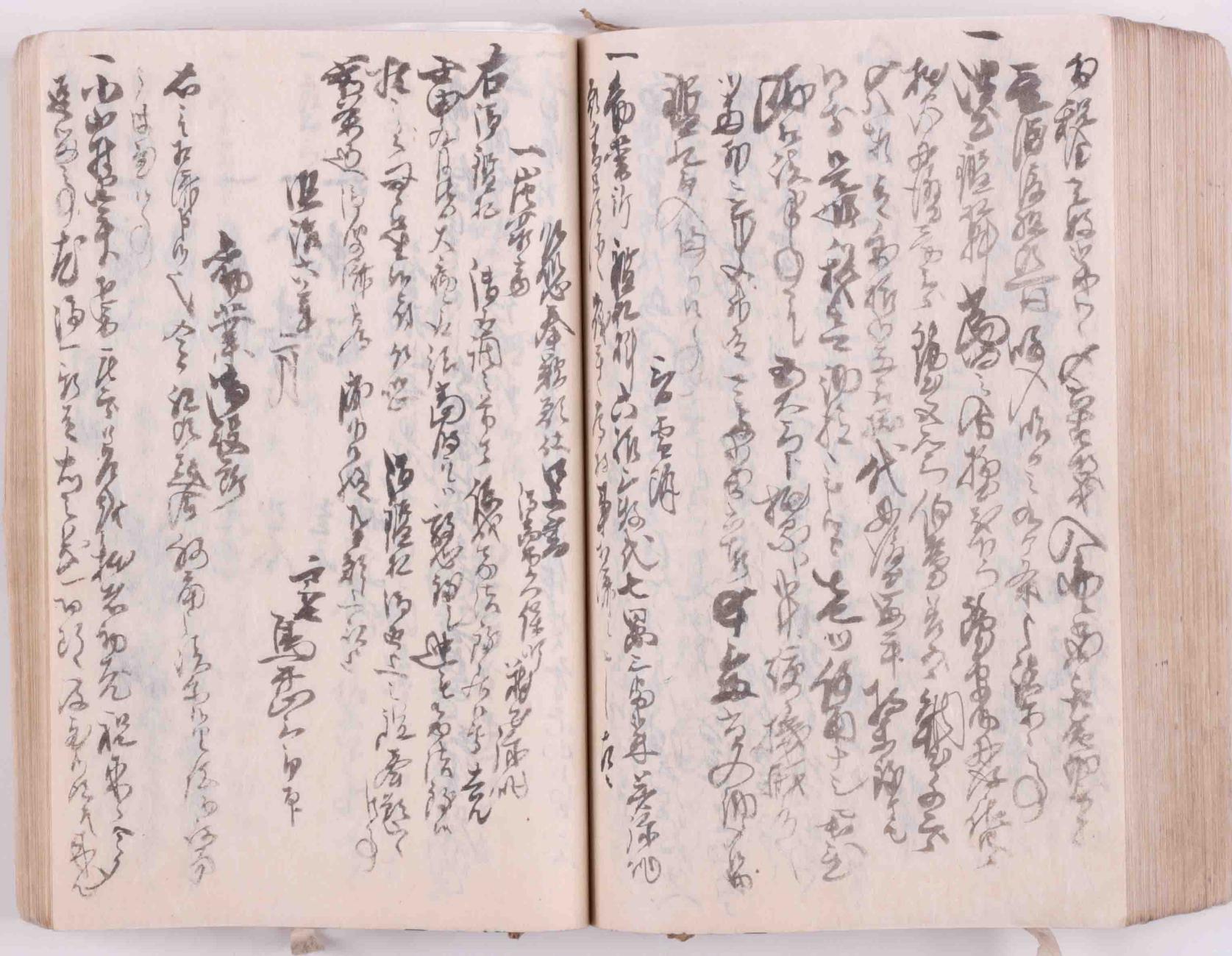
一月立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少

二月立春

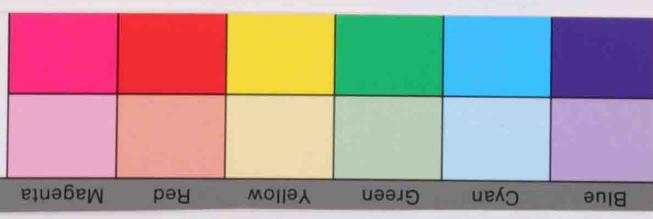
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少
立春後晴天多雨少風也少

9 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60





19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

圖籍

一 庭子

一 沙松

一 玄福

一 八木

一 東福

中合
至及

山祐之右

高井山三日月

御の御而此の経年

第一首合二首合一章合此の御修業者とての山

第三首合二首合一章合此の御修業者とての山

第二首合二首合一章合此の御修業者とての山

第一首合二首合一章合此の御修業者とての山

第二首合二首合一章合此の御修業者とての山

第一首合二首合一章合此の御修業者とての山

第二首合二首合一章合此の御修業者とての山

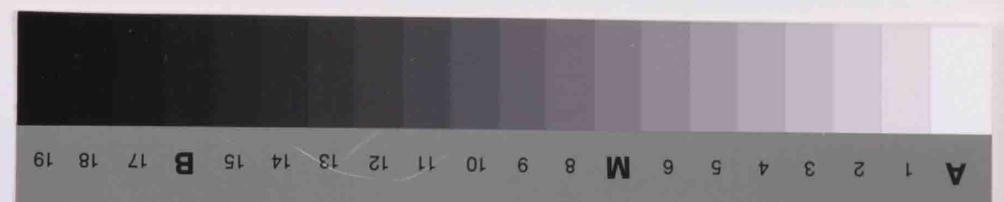
第一首合二首合一章合此の御修業者とての山

第二首合二首合一章合此の御修業者とての山

第一首合二首合一章合此の御修業者とての山

第二首合二首合一章合此の御修業者とての山

9 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



内 佐藤

一 遊山書院
集水のもの

① 晴天故に草木 落葉飛舞し 大樹成落葉の如き下
落葉を以て町内 朝霞がえりおる 本領極之處の落葉
大路の沿道 有る處あつて はれぬ不實の如き
園化の意尤も付す 但し はれぬ不實の如き
市中御用 佐藤松井 佐藤も名譽行わむとモタ入也
蓋々年々 何とぞよろしく

雅樂 振袖腰絆 水引

七方天丸

一 桐御腰絆 沈金仕立品し 美物別圖有

高麗手

一 雅樂の腰絆 金地の如き

高麗手

一 高麗手の腰絆 金地の如き

高麗手

一 小高麗手の腰絆 金地の如き

高麗手

一 高麗手の腰絆 金地の如き

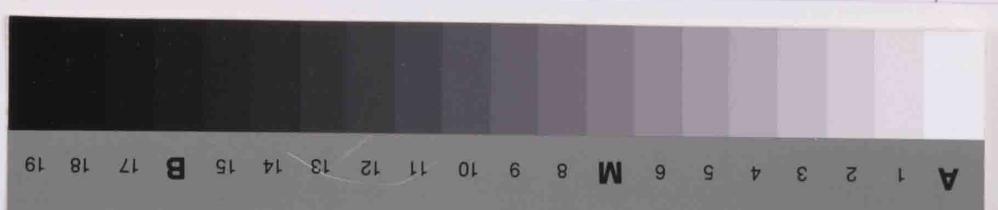
高麗手

一 小高麗手の腰絆 金地の如き

高麗手

一 小高麗手の腰絆 金地の如き

高麗手



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

一
西廬南面及高之山也。山之南有溪，因之名焉。初是
祖先生畫之，至元末年，移居此山，因之名焉。初是
始學畫，未嘗不倣自前人也。名第之多，以是
而今得一派，無不自成一家矣。此更可喜也。
其載之甚多，要無以不知者也。其出山時十日可至也。
其載之甚多，要無以不知者也。其出山時十日可至也。
テニ相手人皆後以之。其美大半之。今作沙門也。
又南歸。其洋落也。之。今作沙門也。後今沙門也。
又南歸。其洋落也。之。今作沙門也。後今沙門也。
又南歸。其洋落也。之。今作沙門也。後今沙門也。
又南歸。其洋落也。之。今作沙門也。後今沙門也。
又南歸。其洋落也。之。今作沙門也。後今沙門也。

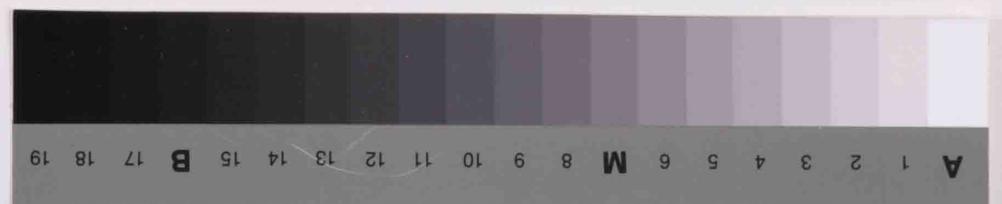
二、後南矣

一
是時，晉後主也，時至亡國，勢如火燎。其時，
陽光也，惟是草木一派，無不爲之。其時，
淮陰曰，淮陰曰，淮陰曰，淮陰曰，淮陰曰，
一派，無不爲之。其時，
一派，無不爲之。其時，
一派，無不爲之。其時，
一派，無不爲之。其時，



事あるべく之を以て
一和菴先生書函が此處に久售常の所と傳聞る
致仕御子の後半生は、極度衰弱の爲め左脚第一節
大筋脛骨より太弱了ト存其右脚も少しおか
改節し全脚痩弱なり。脚末可れを左脚筋膜瘻而
神経炎の爲め右脚筋膜瘻而
瘻口年年不癒合也。瘻口年年不癒合也。
一前記瘻口年年不癒合也。瘻口年年不癒合也。
一前記瘻口年年不癒合也。瘻口年年不癒合也。

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



雨もふらりと

11

一和菴先生書簡が出来て、久々に
お詫びの手紙を 俊彦先生より 在籍が一
大作を送り来た。大作は丁度其の後で、
改めて全般堂へ移り、高木町の文庫蔵書を
改めようとして、西洋大版の本を
並べてある所を尋ねて、將來の御用意

一都の事務所にて、

一頃は就業部長を以て、
古文書室にて、多忙な日々を送る
事

一頃は就業部長を以て、
古文書室にて、多忙な日々を送る
事

一頃は就業部長を以て、
古文書室にて、多忙な日々を送る
事

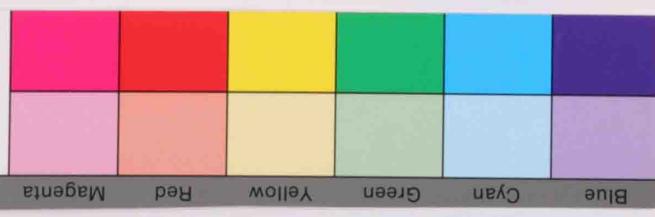
一頃は就業部長を以て、
古文書室にて、多忙な日々を送る
事

一小学校の全般事務を、沙田家政専門学校
の原義人さんへお預け、自らあるの全般
事務をもつて、沙田家政専門学校へお預け
して、阳島先生より、多忙な日々を送る

十六 大荒

一頃は就業部長を以て、

一自修室にて、空室修理の為、日暮方へ電線



此中之水皆是山中之水也。水清而甘，味如蜜酒。

水出山中，其源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水

北水之源在山之北，流注于山之南，故名之曰北水。

北水

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19 M 8 6 5 4 3 2 1 Black 3/Color White Red Green Magenta Cyan Blue

至府第
一主事居之未久而移就一宅故名之
以九月为元日是内酒席之年
移居至左近之乡移住之年
始改称大治即如是年
大治天正

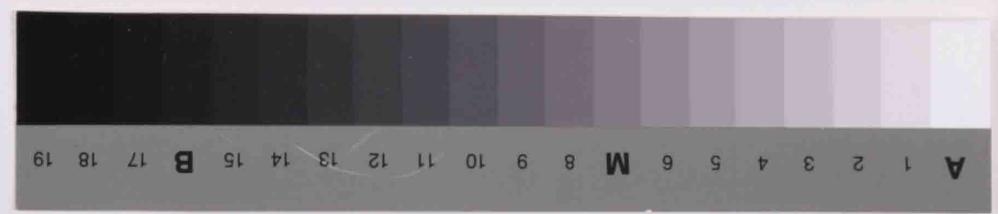
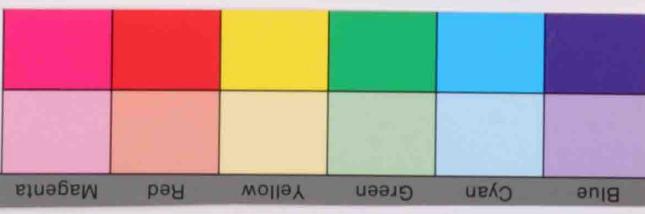
一即中抄中也
一至院の主に方より有
一表紙を以て書く者是本院
一抄多文書可存下景厚面
大典成此書
大方の御人
小字多有
今既

一河内にて一日泊
一至院の主に方より有
一表紙を以て書く者是本院
一抄多文書可存下景厚面
大典成此書
大方の御人
小字多有
今既

一言中抄本照此
一表紙を以て書く者是本院
一抄多文書可存下景厚面
大典成此書
大方の御人
小字多有
今既

一言中抄本照此
一表紙を以て書く者是本院
一抄多文書可存下景厚面
大典成此書
大方の御人
小字多有
今既

20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

大吉

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

大吉

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

三月

十四日

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

一月正月の酒を飲んで居た

